

自由と個人の尊厳・思索と自己の完成

中津高だより

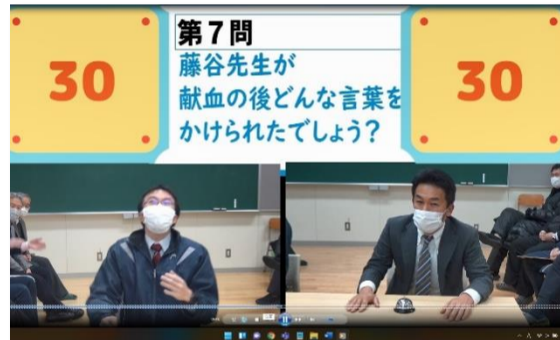
Vol.13

R4.3.15

先輩へ感謝の気持ちを込めて

昨年度に引き続き、今年度もコロナ禍のため、体育館での予餞会は断念せざるを得ませんでした。しかし、生徒会を中心に、1・2年生から3年生へ感謝の気持ちを込めて、VTRと校内放送を利用した予餞会を企画してくれました。

2月28日（月）朝から、生徒会の生徒が校内を飾り付け、3年生を迎え入れる準備を行いました。予餞会はギターマンドリン部の演奏で始まり、部活動の後輩からのメッセージや3年間の思い出のスライドショー、転出された先生と旭陵留学でアメリカにいる同級生からのメッセージが流れました。



中津高の先生に関する問題やジェスチャークイズなど様々な企画を撮影してVTRを作成されました。



生徒会室での編集作業



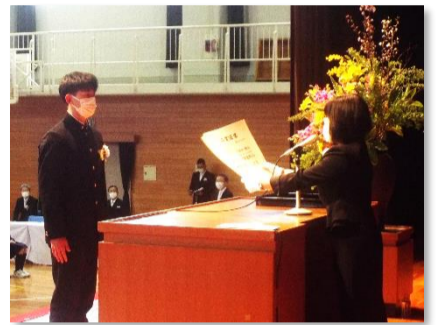
VTRを見る3年生の教室の様子

そして、生徒会と3年学年団の先生が協力して作成した力作『VS 3年学年団』が流れ始めると、各所で笑いが起き、和やかな雰囲気が教室内に広がりました。そして最後に、吹奏楽部の演奏で幕を閉じました。

色々な我慢を強いられた3年生でしたが、予餞会を通して、多くの思い出と、良き仲間や先生方に囲まれていたことを実感できたのではないのでしょうか。そして、素晴らしい先輩であったからこそ、後輩から慕われ、このような素敵な会になったのだと感じます。

3年生卒業おめでとう

3月1日（火）第73回卒業証書授与式が行われました。今年度も、在校生は参加せず、オンラインにて中継を行いました。卒業生の堂々とした入場に始まり、静寂の中、担任から卒業生の名前が呼ばれ、「はい」という返事とともに卒業生が起立していきました。クラスの代表者が、学校長から卒業証書を授与され、振り返ったその表情は、達成感と自信に満ち溢れていました。学校長の森井先生の式辞では、「学び続けることと多くの人と関わることの大切さ」を話されました。2年生の山下諒人君の送辞では、「卒業生が中心となり、新体制で行われた旭陵祭を通して、伝統を受け継ぐとともに、新しい時代の学校祭を創り上げていく覚悟を持つことができた。」と力強く語ってくれました。それに対して、卒業生の佐々木日向さんの答辞では、「今までの友達の概念を覆すほどの友や、授業以外でも人生相談に付き合ってくれる親身な先生方と出会えたことは大きな財産です。」と優しい表情で話してくれました。最後に、卒業生一人一人が担任の前を通過して体育館を後にし、式は幕を閉じました。



先が不透明な今日ですが、中津高校で学んだこと、経験したこと、そして、仲間への存在は確かなものです。それらを心の拠り所として、新たなステージで活躍してくれることを願っています。3年間本当にありがとう。

